

令和 6 年度 城山中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる人間の育成を目指す。

(2) 具体目標

- 1 心身共に健康で勤労を尊ぶ生徒
- 2 基盤となる学力を身につけ、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- 3 礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- 4 主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- 5 文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

(3) 生徒の信条

「強く、賢く、美しく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、すべての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 現行学習指導要領に基づき、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、目標に向かって粘り強く取り組むことが求められる活動等を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- (2) 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに働き方改革の推進により職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- (3) ○小中間の連携強化を図り義務教育の連続性の確保と、地域人材・地域教材を有効に活用し、地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

【城山地域学校園教育ビジョン】 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～
みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地球を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

関係法令、県教育振興基本計画 2025、市学校教育スタンダードや指導の重点に基づき、生徒が持続可能な社会の創り手となることができるように、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。その際、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等と連携した、地域に根ざした豊かな体験活動の実施を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実○地域の教育力を生かす教育活動の推進・目標に向かって粘り強く取り組む力を育む教育活動の工夫（SDGsへの取組活用）・業務の効率化等による働き方改革の推進
- (2) 学習指導
・「主体的・対話的で深い学び」の実現・学習目標の明確化と振り返りによる充実・読解力向上に向けた読書活動の充実・学習習慣の定着を目指す指導○SDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進
- (3) 児童生徒指導
・自己有用感を味わえる教育活動の推進○認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止・規範意識の醸成・生徒会、部活動等による自主・自律の精神の育成
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
・健康（感染症対策）と食の安全確保○家庭・地域・行政と連携協力して実施する交通安全・防災・保健等の指導・学校栄養士を核とした望ましい食習慣の育成・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学力調査等の結果を分析・共有し, 生徒の学習における課題を明確にした上で, 自分の意見の根拠をきちんと述べて発表するなど, 中身を深めた質の高い話し合い活動の機会を増やす。 ② ふるさと学習やあったか活動などの地域交流活動において, 外部講師による授業や, 自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れることで, 生徒の思考力・判断力・表現力等を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90%以上を目標としていたが, 89.4%で0.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・具体的な取り組み①、②について, 次年度も継続して実施していく。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 冒険活動教室や職場体験学習等で, 人・自然・社会との関わりを通して体験活動の充実を図り, 感謝の気持ちをもって生活する心を育成する。 ② 道徳、学級活動の時間を中心に, お互いに助け合う場面を作り, 認め合う活動を意図的に取り入れるなど, 「ありがとう」という感謝の言葉が自然に出るような支持的な雰囲気醸成する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.9%であり, 数値指標を達成した。また, 昨年度を 2.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・日常生活における相互理解を大切に指導するとともに, 旅行・集団宿泊的行事や道徳、学級活動及びふるさと学習やあったか活動等で, 互いに協働したり合意形成したりする活動を意図的に設定し, 相互に認め合い思いやる心を育成する。
	A3 生徒は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・学校行事や部活動などでの困難を乗り越える体験を通して, 「褒めて伸ばす」「一人一人の個性を伸ばす」指導を継続するとともに, 生徒には個々に応じた目標を設定させ, 自己評価を行うことをサイクル化させることで, 達成感や自己有用感を味わわせ, 目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育む。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.0%であり, 数値指標を達成した。また, 昨年度を 3.1%上回った。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に取り組める機会や活動を意図的に設定し, 達成感や成就感を味わわせることで, 自己肯定感を高める。また, 生徒が自ら目標を設定し自己を振り返る活動を充実させるとともに, 教職員が個々の状況を把握し, 適切に指導・支援を行う。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 生徒は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健体育の授業において, 補強運動を積極的に取り入れ体力の向上を図る。 ② すべての生徒が, 栄養バランスを意識して給食を食べることができるようにする。 (SDGs 12 作る責任・使う責任) ③ 交通安全教室, 避難訓練等を通して, 正しい意思決定や適切な行動選択ができるようにする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.2%となり, 数値指標を上回った。しかし, 前年度の肯定的回答と比較すると, 生徒は 0.6ポイント低く, 教職員は 5.9ポイント、保護者は 2.5ポイント低くなった。 【次年度の方針】 ・主な具体的な取組①～③について, 次年度も継続して実施していく。また, 保健体育の授業では, 補強運動の強度をより高め, 体力の向上を図る。給食指導については, 家庭と協力して, 苦手な物を少しでも食べるように指導をしていく。

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・学級活動(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」や、道徳C(12)「社会参画・公共の精神」の学習等を工夫し、自分の夢や進路等について考えさせ、城山あったか活動を通し、地域の一員として社会貢献への意欲を高めることにより、自己有用感を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.8%であり、数値指標を達成した。一方で、昨年度を0.6ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・職業に関する学習や社会体験学習等を通して、自身のよさや適性について考え、それを伸ばしたり生かしたりすることができるよう指導・支援を行う。 ・ふるさと学習、城山あったか活動を継続および改善するとともに、地域学校園の小学校や地域のイベントなどにボランティアとして積極的に関わる機会を設ける。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・英語の授業や日常生活の中でALTを効果的に活用することで、生徒とALTがコミュニケーションを図る機会を増やすと共に、授業中に生徒同士で話す・聞く・書く・読む活動を充実させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は73.3%にとどまった。数値目標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・挨拶やスモールトークもコミュニケーションの一環であることを理解させ、達成できた生徒を褒めることで、達成感を与え、次のステップにつなげる。
	A7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① ふるさと学習で学年ごとのテーマを設定し、環境や地域文化財、産業、福祉等について学習を行い、郷土の良さを知るとともに、愛情と誇りをもたせるようにする。 ② 朝の会や教科等の授業の中で関連する内容を学ぶ際に、宇都宮や地域の行事・活動だけでなく、宇都宮学を活用し、大谷石文化を積極的に紹介したりする。 ③ 保護者の啓発を行うため、各種たよりや保護者会等での情報発信に努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は89.0%で、数値指標を上回っているが、昨年度と比べて0.2ポイント下回る結果となった。 【次年度の方針】 ・地域資源を活用したふるさと学習(宇都宮学)を引き続き推進するとともに、保護者や地域への情報発信に努め、協力を得ていく。
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① 全ての教科で1人1台端末を授業に取り入れる方法を研究し、調べ学習やまとめの活動などに積極的に活用する。 ② 図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、図書館司書と連携して図書等を学習に活用する機会を設ける。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が80.0%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・図書の利用も各教科において推進していく。
2ー(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%以上	・「持続可能な社会」の実現に向けて、教科や領域の学習において、学年目標に向けた具体的な手立てを考えさせるとともに、専門委員会などの活動を通して実行していく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は79.2%で、数値指標を上回った。昨年度と比べて0.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・1学年の総合的な学習において、市SDGsプラットフォームの基礎講座を受講し、SDGsについての正しい知識を身に付けさせ、主体的に「持続可能な社会」の実現に向けて考えていくきっかけをつくる。
3ー(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・生徒指導部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努める。また、特別支援教育コーディネーターを中心に関係教職員や関係機関等と連携を図り、適切な支援を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・生徒指導部会等、各種会議において、生徒の実態把握と情報共有に努める。また、特別支援教育推進委員会等で、個々に応じた適切な支援について検討し、支援・指導を行う。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上	① 生活の場面を含むすべての活動においていじめが許されない行為であることを指導するとともに、生徒にとって心的物理的安心のある環境を整える。いじめに関する道德の授業や学級活動のテーマとして取り上げる。 ② 学校でのいじめに関する取組をHPに掲載したり、メール配信システムを利用し、家庭に周知したりすることで、保護者へも啓発する。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.9%であり、数値指標を未達であった。また、昨年度を0.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校生活を含むすべての活動において、いじめが決して許されない行為であることを指導する。 ・全教職員で情報共有と行動連携を図り、発達支持的生徒指導に取り組むとともに、学校での取組を保護者・地域に周知することを通して、生徒にとって心的物理的安心のある環境づくりに努める。 ・いじめに関する校内研修の充実を図る。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	・学級の係活動や学校行事等において、生徒が主体的に活動できる場や自己決定の場を設定し、個々に適切な指導や支援を行う。また、そこでの活躍を認め励ます指導を行うことを通して、自己有用感・自尊感情を育むとともに、学級や集団に自身の居場所や所属感を感じられるようにする。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.3%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を2.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・日常生活や学校行事等で、個々に応じて活躍できる場面や役割を設定し、個々に見守り支援・指導することを充実させる。 ・生徒間でよさを発見したり認め合ったりする場面を増やすことで、自己有用感を育むとともに、学級や集団への「所属感」や「自己存在感」を得られるよう支援する。 ・学校や学級、集団との繋がりを絶やさぬよう、サポートルームの柔軟な活用等、個々に応じて適切に支援する。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① スモールステップ目標を設定し「褒めて伸ばす指導」を推進することで、生徒一人一人が自己肯定感を持ち、学校生活に満足感を得られるように支援する。 ② 生徒が主体的に活動できるように授業や学校行事、生徒会活動等の生徒が活躍できる機会を意図的に設定する。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は93.7%であり、昨年度を0.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・より一層の業務改善を推進し、教職員が生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。 ・多様な教育的ニーズに対応できるように、教職員間で十分にコミュニケーションをとりながら、チームとして支援していけるようにする。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 「自分の考えを書いてまとめる等、思考力・判断力・表現力の育成」に重点を置き、さらに読解力を身につける授業改善に積極的に取り組む。また一人一授業を継続し、お互いのアイデアを参考により良い授業を目指していく。 ② 単元末テストや小テストを計画的に実施するとともに、生徒がワークブック等に計画的に取り組める方策を検討し、基礎・基本の定着に重点を置く。 ③ 教科等の内容が社会につながっていることに気づかせ、学ぶ意義を理解させるよう努める。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が92.5%で、数値指標を2.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教職員の1人1授業等、今年度に行った取り組みを継続する。 ・朝の読書の時間に、週に数回、学習の時間を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでい	① 学校の組織力を強化するため、校務分掌や委員会所属等に配慮し、教育活動の充実を図る。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は88.5%であり、数値指標を下回る結果になった。

	る。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	② 朝の打合せ、日報、資料の回覧、職員会議等での情報交換・共有に努めるとともに、担当教員を中心として組織として生徒や保護者とコミュニケーションを図り、計画的に情報交換の機会を設ける。		【次年度の方針】 ・適正な業務分担がなされるように配慮し、教職員のメンタルヘルスの向上に努める。 ・生徒の情報を共有しながら、担任だけでなく、学年や学校がチームとして連携しながら対応にあたるようにする。
4-（3） 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 勤務時間に対する意識改革を進め、ミライムによる出退勤時刻の入力行うことで、勤務時間を意識した働き方を実践する。 ② 市部活動方針に基づき、休養日等を適切に設定し、運用を徹底する。 ③ 各種団体からの研修会参加依頼やコンクール等への出品依頼等を精選する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は76.9%であり、昨年度より5.5ポイント上回ったものの、数値指標を下回る結果になった。 【次年度の方針】 ・行事や業務の精選を図り、積極的な業務改善を行っていく。 ・他校の取組等を参考にしながら、本校の実情に合わせて取り入れていく。
5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 小中一貫教育推進教員を中心に部長、分科会長が小中の教職員間によりよい協力体制を築き、交流事業やボランティア活動を実施できるように小中学校間の連携を図る。 ② 小中が連携した取り組みを各種たよりで生徒や保護者へ学校だよりやホームページで情報発信するとともに、あいさつ運動等の活動に参加した生徒の感想を校内放送するなど、生徒への啓発を図る。	C	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90.2%であり、数値指標を上回っているが、昨年度を0.6ポイント下回る結果となった。 【次年度の方針】 ・教職員の負担軽減のため、優先順位や目的を明確にしながら、活動の精選を図っていく。
5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止教室や、保健・安全・福祉等の講座を検討・実施する。 ② 地域連携教員と地域コーディネーターを中心に、魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、外部人材の協力を得た活動の検討と人材の発掘に努め、城山ギャラリーに展示する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は91.2%であり、昨年度を3.5ポイント上回った。数値指標も上回っている。 【次年度の方針】 ・HP等を活用し、活動の様子などの情報を、積極的に発信していく。
5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進				
6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、対処が必要な部分は適切に処理する。 ② 災害・事故等緊急事態に適切に対応できるようにするため、職員間での連携・共通理解を徹底していく。 ※保護者・地域住民への情報発信に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%となり、数値指標を上回った。さらに、教職員・保護者・地域住民のすべてにおいて、前年度の数値を上回っている。 【次年度の方針】 ・主な具体的な取組①、②について、今年度の内容を継続し、さらに安全点検の結果を教職員間で情報共有を行う。
6-（2） 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・全生徒に配付された1人1台端末について、全教職員が情報交換を図りながら、有効活用に努める。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・放送機器やICT関連の機器の使い方を全職員が分かるように、校内研修等を行う。
小・中学校、地域学校共通、本校	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】	① 地域学校園内の小学校や地域協議会や外部機関と連携をした「あいさつ運動」を、さらなる活性化を目指し工夫する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.9%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を0.5ポイント上回った。

の特色・課題等	生徒の肯定的回答 95%以上 地域住民の肯定的回答 90%以上	② 生徒会による「あいさつ運動」を継続し、さらなる充実を図る。校外活動においても気持ちのよいあいさつができたときに称賛し、一人一人の意識を高める。	・地域住民の肯定的回答は100%であり、数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・教職員からだけでなく率先してあいさつするなど等、日常のあいさつを大切にするを指導する。 ・地域学校園内の小学校や地域協議会と連携した「あいさつ運動」に加え、生徒会と連携しあいさつ運動を充実させる。校外活動においても気持ちのよいあいさつを称賛し、生徒一人ひとりの意識を高める。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒指導係と生徒会が連携し、生徒が主体的によりよい身だしなみについて考え、整えようとする意識を高められるよう、身だしなみを確認する機会を設ける。 ② 生徒指導係と生徒会が連携して校則の見直し等を継続し、生徒が主体となってきたり約束について考えたり決めたりすることで、自分たちのよりよい生活のために生徒が自らきまりやマナーを守っていかうとする力を育む。 ③ SNS関係のトラブルの未然防止について十分に指導をするとともに、タブレット端末を適切に活用できるよう、学級活動や集会においてデジタル・シティズンシップ教育を充実させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.5%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を2.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒指導係と生徒会が連携し、生徒が主体的により良い身だしなみについて考え、整えようとする意識を高められるよう、身だしなみを確認する機会を設けることを継続する。 ・生徒指導係と生徒会が連携して校則の見直し等を継続し、生徒が主体となってきたり約束について考えたり決めたりすることで、よりよく学校生活を送るために、自らきまりやマナーを守っていかうとする力を育む。 ・ネット・SNSに係るトラブルの未然防止について日常から発達支持的指導を行うとともに、タブレット端末を適切に活用できるよう、学級活動や集会においてデジタルシティズンシップ教育の充実を図る。
	B3 生徒は、手洗いやうがいを行って、健康の維持増進に気を配っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健体育委員会が中心となり、手洗いチェックやハンカチ所持率等の確認を実施するとともに、感染症拡大防止を図るため、全教職員が手洗い等の指導を徹底する。 ② 保健だよりや学校ホームページ等を活用し、時期に応じた健康課題や生徒の活動の様子を情報発信する等、健康の維持増進の意識が高まるよう工夫する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.3%となり、数値指標を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は、前年度と比較すると6.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・主な具体的な取り組み①、②を行う中で、生徒だけでなく保護者に対して、健康の維持増進に関する情報発信に努める。
	B4 生徒は、朝の読書等により、読書の楽しさを味わっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 朝の読書に、落ち着いた雰囲気できちんと取り組むことができるようにする。 ② 図書委員による各学級でのブックトーク（本の紹介）を年間予定に組み込み、実施していく。 ③ 掲示板等や図書館だよりを利用した本の紹介活動の充実を図り、生徒が積極的に読書の楽しさを味わえるように努めていく。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が77.6%にとどまった。 【次年度の方針】 ・図書館だよりやお昼の校内放送において、お話給食を通して本の紹介を充実させるなど読書の楽しさを伝えていく。
	B5 地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度が身についている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答	① 城山あったか活動やふるさと学習等の体験を通して、地域社会の一員として自分にできることを考え主体的に活動しようとする態度を育てる。	C 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は92.2%であり、昨年度を0.6ポイント上回った。数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・「城山あったか活動」は、本校の特色

	90%以上	② 生徒へ地域行事やボランティア活動参加の呼びかけや情報提供を行うとともに、保護者への情報発信に努める。	ある活動のひとつであるが、教職員の負担が大きい現状があるため、来年度は内容や活動方法について変更して実施する。
--	-------	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【数値指標】

25 の設問中、指標を上回り達成しているものは 20 で、80%の達成率であり、概ね満足の状況です。

【学校運営】

○A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」は、生徒・教職員・保護者の肯定的回答が、それぞれ市平均を上回っています。乗り入れ授業や小6中学校訪問に加え、冒険活動教室や学習発表会での合唱参観、オンライン交流など様々な場面で小学校との交流を深めた成果です。

・A9「生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」は、市平均を2.5ポイント上回っています。これは、城山中学校地域協議会の協力により、「ふるさと学習」や「城山あったか活動」を通して、城山地区の歴史や産業を学ぶ活動を行ったこと、また、今年度から全学級で大谷地区や大谷石を英語で紹介する授業を取り入れた成果です。

【学習指導】

・A13「教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」は、生徒・保護者の肯定的回答が市平均をそれぞれ下回りました。今年度は、学力向上推進リーダーと学力向上コーディネーターの支援を受け、教師の授業力向上に努めました。

・教科の特性に応じてスクールタクト等のICTを積極的に活用した授業の展開を進めています。また、毎日行っている「朝の読書」を2学期より週1回「朝の学習」として、AIドリルを利用した自主学習の時間とし、生徒の学習の習慣化を図りました。また、生徒登校の状況により、「かがやきルーム」の利用を促したり市教育センター等と連携したりして、生徒の学習機会の確保に努めました。

【児童生徒指導】

・A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」は、生徒の肯定的回答が市平均を0.5ポイント上回りました。生徒会生活安全委員会が中心となって校則の見直しを行い、生徒は新しい校則で学校生活を送っています。

・教職員は、職員研修を通して生徒一人一人の特徴を共通理解し、生徒の支援・指導に当たっています。また、生徒登校の状況により、メンタルサポーターやスクールカウンセラーとの面談、「サポートルーム」の利用などを紹介して、生徒登校の意欲付けを行いました。

【健康（保健安全・食育）・体力】

・A4「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」は、市平均を0.7ポイント下回りました。生徒の通学区が広く、自転車通学や保護者の送り迎えの生徒も多い状況です。自転車使用時の交通ルールやマナー向上の啓発を図っていききたいです。また、地域と協力して通学路の安全確認を行いました。

・B3「生徒は、手洗いやうがいを行ったり、健康の維持増進に気を配っている。」は、保護者の肯定的回答が84.1%にとどまっているため、保健だよりやホームページで学校の取り組みの様子を発信するとともに保護者の啓発を図っていききたいです。

7 学校関係者評価

- ・今後も学力の向上、心身の健全育成に向けて粘り強く取り組み、社会に貢献できる人材を育成してほしい。
- ・身近なところでは、「ゴミ拾い」や「ものを大切にすること」など、身の回りの行動も持続可能な社会につながっていると思います。
- ・ボランティア活動への参加や地域を知することは、結果的に自己有用感を高めることになり、教育的効果につながっていることを再認識しました。
- ・「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」という質問に対して、生徒の肯定的回答が96.4%であり、本校の取り組みの良さを示しています。
- ・他の学校と比べると、先生方は「努力をしない、頑張ろうとしない」と感じているかもしれません。昔からいつまでも小学生気分が抜けず、遊ぶことに夢中なようです。その分先生は、「幼さを感じ、成長してほしい。」という思いがあり、生徒と先生のギャップが大きいのだと思います。
- ・粘り強く取り組む生徒の育成は、小学校でも課題となっています。自己肯定感を育む取り組みを継続してほしいです。
- ・乱暴な言葉遣いをする生徒がいると聞きました。友人間の会話だとは思いますが、心配です。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・アンケート、学校関係者評価では、今年度も貴重なご意見をいただきました。令和6年度の学校経営については概ね良好であり、教育目標（目指す生徒像含む）、学校経営の理念（目指す学校像含む）、学校経営の方針、今年度の重点目標に沿った教育を推進できたと考えられます。今後も地域と協力しながら学校教育目標の実現に向けて取り組んでいくとともに、総合的な評価で記述した項目に重点を置きながら、次年度の方針を具体化する教育活動の充実に繋げていきます。

・学校関係者評価にもあるように、いじめについて、いじめ防止対策、全教職員の共通理解や組織としての取り組みによる早期発見や早期解決が期待されています。いじめが許されない行為であることを、全ての学校生活を通して伝えていきます。また、いじめの実態把握を確実に行えるよう、「学校生活アンケート」を定期的実施し、いじめや性に関する悩みを早期発見することに努めるとともに、相談体制の確立や支援方法の多様化などを充実させていきます。また、必要に応じて地域や市教育センター、警察等の関係機関と連携を図り、情報を共有できる体制づくりに努めます。さらに、生徒や保護者への啓発を図っていきます。

○学力向上については、学力向上推進リーダーや学力向上コーディネーターの助言を受け、普段の授業改善に学校全体で取り組むとともに、地域学校園としての取り組みに広がっていきます。

○本校の強みである地域資源を生かした教育を継続し、地域学校園においても広げることで、生徒の自己有用感を高めます。学校関係者評価にもあるように、目標に向かって根気強く活動させることで、困難な課題に対応する場面でも、諦めずにやり遂げさせ、「児童生徒の粘り強さ」を育む取り組みを継続します。

・教職員の働き方改革については、「意識改革」や「業務の見直し」を進めています。また、教員以外の専門スタッフとの連携を充実させることで、より良い教育効果が得られるよう取り組んでいきます。学校ホームページを通して情報発信・共有を心がけ、開かれた学校の中で生徒が生き生きと学習や生活に取り組めるよう、保護者や地域との協働を推進していきます。